



日本共産党 北区議会議員

のの山けん区政レポート

http://ken-nonoyama.com/ mail@ken-nonoyama.com

No.591 2021.1.27

日本共産党北区議員団

〒114-8508 王子本町1-15-22

ご相談は
お気軽に **090-2156-3510**

一日 6万円ではまったく足りない



飲食店
への

十分な補償を

緊急事態宣言下で、都内の飲食店は午後8時までの時短営業を強いられています。政府は、月最大180万円の協力を支給するとしています。が、笠井議員は「一日6万円ではまったく足りない」という事業者の声（**囲み参照**）を紹介し、店舗の広さや雇っている従業員の数など、事業規模に応じた協力金の額に引き上げるよう求めました。

また、取引先への最大40万円の一時金も極めて不十分であり、売り上げ減の全ての業種への十分な補償こそ必要と強調。あわせて、持続化給付金の第2弾を実施するよう強く求めました。

26日、衆院予算委員会で、日本共産党の笠井亮衆院議員は、コロナ禍で苦しむ中小業者の切実な声を紹介し、時短営業に協力する飲食店などへの十分な補償を求めました。（のの山けん）

質問する笠井議員 = 26日、衆院予算委

笠井議員が紹介した 赤羽・居酒屋店主の声

持続化給付金、家賃支援給付金で助かってきたが、これだけでは足りない。従業員には、雇用調整助成金も活用したけれども、自腹を切ることもあり、公庫からの借り入れを赤字補てんに充てている。家賃や水光熱費など200万円の固定費負担が重くのしかかる。早く収束してほしいから感染防止には協力したい。せめて月々の固定費さえ補償してくれば、みんな安心して休める。



北区立いきがい活動センター きらりあ北が開館

8日、旧健康増進センター跡地に、健康づくり、就労、社会参加など、高齢者のいきがいづくりを支援する拠点、北区立いきがい活動センター「きらりあ北」がオープンしました。運営は指定管理者の奉優会です。



ざっくばらんにおしゃべりのつどい

赤羽駅東口再開発を考える



24日、のの山けん事務所で、第2回「ざっくばらんにおしゃべりのつどい」を開催。今回のテーマは、赤羽駅東口市街地再開発です。

まちの様相を変えてしまうような大事業なのに、まだまだ多くの人に知られていない再開発。「何よりも情報公開と住民合意が大切」との感想が寄せられました。(のの山けん)

再開発事業の進捗状況は？

東本通り沿いの「第一地区」については、昨年、都市計画決定され、早ければ2026年3月までに再開発ビルが竣工する予定です。一番街やOK横丁を含む「第二・第三地区」はいまだ合意に至っておらず、日本共産党は、コロナ禍の下、計画はいったん立ち止まるべきと訴えています。



駅前の飲食店街がなくなる？

「第一地区」の再開発ビルは、隣接する東横インの2倍の高さとなる地上110メートル、26階建。一戸あたりの平均価格は約8000万円です。100メートル超のタワーマンションが3棟並べば、“せんべろの聖地”として人気を誇る現在の飲食店街は、すべて撤退を迫られることになります。



赤羽小を赤羽公園に移転？

区は再開発と一体に駅周辺の公共施設の再配置を検討するとし、議会でも一部会派から、「赤羽小を赤羽公園に移転しては」との意見が出されています。しかし、再開発によって地域住民の憩いの場、歴史的価値を持つ赤羽公園をなくしてしまってよいのか、十分な説明と議論が不可欠です。

